

平成 30 年度
横須賀美術館 活動状況中間報告書

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 30 年（2018 年）10 月

横須賀美術館

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

展覧会及び観覧者数（9月末現在）

展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)	
企画展	青山義雄展 きらめく航跡をたどる	4/1-4/15	2,000	2,541	127.1
	集え！英雄豪傑たち	4/28-6/17	18,000	12,804	71.1
	三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA	6/30-9/2	30,000	35,868	119.6
	モダンアート再訪 ミロ、ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展	9/15-11/4	20,000	6,735	33.7
	矢崎千代二 絵の旅	11/17-12/24	5,000	—	—
	第71回児童生徒造形作品展	1/12-1/28	14,000	—	—
	野口久光 シネマ・グラフィックス	2/9-3/31	9,000	—	—
所蔵品展のみの期間	上記以外	6,000	3,739	62.3	
計		104,000	61,687	59.3	

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

⇒展覧会毎に発送 1展覧会につき約 350 件

(このほか学校等施設へのちらしの送付 約 1,500 件)

⇒取り扱い件数

「集え！英雄豪傑たち 45 件」

テレビ 2 件、ラジオ 1 件、新聞 28 件、雑誌 4 件、web 4 件、その他 6 件

「三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA 64 件」

テレビ 1 件、新聞 43 件、雑誌 7 件、web 7 件、その他 6 件

「モダンアート再訪 22 件」

新聞 15 件、雑誌 4 件、web 3 件、その他 0 件

(2) イベント開催など利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催
⇒クリスマスコンサート (12/24 開催予定)
マジックワークショップ (2月開催予定)
野口展関連野外ジャズコンサート (3月開催予定)

- ・年間パスポート、前売券の販売
⇒販売枚数と利用回数 (9月末現在)

	販売場所	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	309	1,198
	芸術劇場	16	
	計	334	
前売り券	美術館	50	121
	芸術劇場	66	
	計	112	

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
⇒カレーフェスティバル (5/19-20) や産業まつり (11/3-4) などへの協賛
- ・ヨコスカサークルバスへの参加など米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒ヨコスカサークルバス事業 (ベース向け無料観光バス) 時期未定
⇒財政課が推進する「ふるさと納税事業」の中で、当館の観覧券とアクアマーレのお食事券をセットにした商品を提供
- ・本市社会教育施設等と連携した情報発信、広報

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒タイアップメニュー (アクアマーレ、観音崎京急ホテル、)
⇒広報協力 (観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか)
⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR
日本大学学園祭 (法桜祭 11/2-3、砦祭 11/3-4)、
立正大学学園祭 (橘花祭 11/3-4)
慶應義塾大学学園祭 (矢上祭 10/6-7)
聖心女子大学学園祭 (聖心祭 10/20-21)
早稲田大学学園祭 (理工祭 11/2-3)
高千穂大学学園祭 (高千穂祭 10/19-21)
獨協大学 (雄飛祭 11/2-3)
東洋大学学園祭 (白山祭 11/3-4)
実践女子大学 (常盤祭 11/3-4)

- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒JAF、JTBベネフィット、リクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合 など

- ・京急電鉄との連携による「よこすか満喫きっぷ」の利用促進
⇒京浜急行の発行するよこすか満喫きっぷへの参加
利用枚数 1,490 枚 (9 月末)

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館PR
- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
⇒観音崎フェスタへのブース出店 (11/3 予定)
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒繁忙期、近隣事業者の美術館への出店 (GW、夏休み期間、無料デー等)

(4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画 (ツアープランなど) の検討、提案
⇒検討中
- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒旅行事業者営業訪問 予定
- ・ウェルカムトークの実施
⇒ガイドンスは学芸員が対応しているが、ガイドンスを行わない場合でも広報担当により簡単に美術館の魅力等を紹介している。

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施
⇒今後も当館のPRに繋がる撮影については積極的に受け入れていきたいと考えています。

【達成目標】 年間観覧者数 100,000 人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」(平成12年6月策定)では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況

(単位：人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9 月末)
見込み (A)	109,000	109,000	104,000
実績 (B)	108,413	118,370	61,687
達成率 (B/A×100)	99.5%	108.6%	59.3%

【実施目標】

- ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

1 パブリシティによる取り扱い件数

(単位：件)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9 月末)
新聞	53	52	131	102
雑誌	55	64	65	27
Web	26	11	4	19
フリーペーパー	57	42	22	15
書籍	4	5	2	0
会報誌	8	4	0	2
TV	12	13	13	10
ラジオ	6	3	10	1
その他	6	1	4	0
合計	227	195	251	176

2 美術館公式ツイッターのフォロワー数等の実績

(単位：件)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9月末)
フォロワー数	4,054	8,303	9,020	9,187

※ 1週間毎にフォロワー数を記録しているため、毎年度 3/31 現在の数字ではありません。

3 募集型企画旅行による観覧数

	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度 (9月末)	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
企画展	4	113	3	67	0	0	1	23
所蔵品展	0	0	12	458	8	224	13	419
合計	4	3113	15	525	8	224	14	442

4 商業撮影の受け入れ件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9月末)
撮影件数(件)	33	30	34	18
使用料(円)	1,518,671	1,263,392	1,484,741	818,760

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

(1) ギャラリートーク (GT) ボランティア 年 87 日

所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 65 回)

* ボランティアを募集し、研修を実施します。(14 回)

* 所蔵品展のレクチャーを実施します。(4 回)

* ボランティアの自主研修を補助します。(4 回)

⇒新規ボランティアを募集し、1名の応募がありました。想定していたよりも少ない応募数でした。現在の登録人数は16名です。

⇒新規ボランティアを迎えたので、昨年同時期よりも2回多い10回の研修を行い、32回のギャラリートークを実施しました。自主勉強(小学生美術鑑賞会ボランティアの研修への参加や所蔵品展展示替期間中の下見)の6日間も含めて、計48日、延べ199名が活動しました(昨年同時期の活動日数は計47日間、活動人数は166名)。

(2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 52 日

小学生美術鑑賞会で来館する小学6年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 46 回)

* ボランティアを募集し、研修を実施します。(1 回)

* 企画展のレクチャーを実施します。(5 回)

⇒新規ボランティアを募集し、3名の応募がありました。想定内の人数です。現在の登録人数は20名です。

⇒新規ボランティアを迎えたので、昨年同時期よりも1回多い4回の研修を行い、18校の受入れに参加しました。自主勉強(ギャラリーボランティアの研修への参加)の3日も含めて計25日、延べ132名が活動しました。活動日数・人数ともに昨年同時期よりも増えています(昨年同時期の活動日数は19日間、活動人数は75名)。

(3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度

障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。

* ボランティアを募集します。

⇒現在の登録人数は14名です。

⇒「みんなのアトリエ」を6回実施し、延べ19名が活動しました。ボランティアからの申し出があれば、すべてお願いすることにしたので、昨年度よりも活動人数は増えています(昨年同時期の活動人数は13名)。

(4) プロジェクトボランティア

年 30 日程度

海の広場などを活用した誰でも参加できるイベントを、ボランティアが自ら企画・準備・運営します。

時期：春、夏、冬の3回

*ボランティアを募集し、原則として毎月2回会議を行います。

⇒新規ボランティアが3名加入し、現在の登録人数は14名です。

⇒「くるくるお花をつくろう」「窓に広がるお花畑」(4月29日)、「海の広場でTシャツペインティング」(8月19日)を開催しました。現在は、12月のクリスマスイベントの開催に向けて準備をしています。計14日、延べ123名が活動しました。

なお、台風により会議が1回中止となりました。昨年度が10周年記念イベントで規模も大きかったため、活動日数・人数ともに平年よりも多くなっていましたが、今年度は平年並みとなっているかと思えます。

(5) プロジェクト当日ボランティア

年 3 日程度

ボランティアイベント実施の補助をします。

⇒春と夏のイベント当日、2日間に延べ7名が活動しました。遠方の人や多忙な人が多かったため、当日の手伝いのみとなっています。

美術館ボランティアの活動日等一覧

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日と祝日(土曜日を除く) 研修:原則として木曜日	隔年4~5月 *30年度は募集	年間15回	1年間(更新有)
(2)	6月~3月の平日 研修:木曜日	毎年4~5月 *30年度は募集	年間7回	1年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜日、イベント準備日・開催日	随時	なし	1年間(更新有)
(5)	年3回	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ 2,400 人

[目標設定の理由]

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・平成 30 年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアともに新規募集するため、研修の回数は 29 年度より多くなります。
 - *ギャラリートークボランティア登録者数 16 名（平成 30 年 1 月末時点）
 - *小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 17 名（平成 30 年 1 月末時点）
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは 2～3 名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
 - *みんなのアトリエボランティア登録者数 15 名（平成 30 年 1 月末時点）
- ・平成 30 年度は秋にイベントを行わないため、29 年度と同等となることが予測されます。
 - *プロジェクトボランティア登録者数 15 名（平成 30 年 1 月末時点）
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、平成 30 年度の目標は、延べ 2,400 人とします。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9 月末)	平成 30 年度 (目標)
ギャラリートークボランティア	334	338	199	330
小学生美術鑑賞会ボランティア	263	197	132	200
みんなのアトリエボランティア	34	21	19	20
プロジェクトボランティア	283	272	123	200
プロジェクト当日ボランティア	27	49	7	30
小計	941	877	480	780
ギャラリートーク参加者	371	453	271	320
ボランティアイベント参加者	1,350	1,363	537	1,300
小計	1,721	1,816	808	1,620
計	2,662	2,693	1,288	2,400

※夏のボランティアイベントでは、Tシャツペインティングに加えて、水遊びのイベントも並行して行いましたが、自由参加だったためカウントしていません。

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。平成30年度は春には「集え！英雄豪傑たち」、夏には子どもから大人まで人気のある彫刻家・三沢厚彦による個展を準備しています。秋には質の高いコレクションを有する福岡市美術館の近代美術の展覧会「モダンアート再訪」を、他に横須賀ゆかりの画家である矢崎千代二展、映画ポスターを数多く手がけた野口久光展、そして、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

① 集え！英雄豪傑たち

4月28日（土）～6月17日（日）

- 江戸の浮世絵から近代の武者絵を中心に現代作家まで、各時代の要求や人々の憧れ、作家独自のストーリーや人物の解釈などによって、時を越えて表された英雄豪傑たちをご覧ください。

⇒*歌川国芳を中心とした江戸の浮世絵から近現代の武者絵や歴史画を展示しました。横須賀ゆかりの英雄豪傑であるヤマトタケルや三浦義明を描いた作品、現代作家野口哲哉氏の作品、変わり兜なども展示し、展示の変化だけでなく、市民や幅広い世代の方に楽しんでいただけるよう試みました。*

② 三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA

6月30日（土）～9月2日（日）

- 日本を代表する現代彫刻家として知られる三沢厚彦は、2000年から様々な動物をほぼ原寸大で彫りだして彩色した「Animals」シリーズの制作を続けています。新作を含む木彫作品と、絵画、ドローイングを展示し、三沢作品の魅力をご紹介します。

⇒*木彫作品をエントランスホール、ブロンズ作品を海の広場、図書室、レストランなど館内各所に展示し、展示室外は撮影可としました。撮影した画像がSNSに掲載されて展覧会のPRにつながりました。また、ギャラリースペース（展示室2と3の間）で「三沢厚彦が選んだ動物の作品」として、三沢氏が所蔵する作品と選んだ作品を展示しました。*

③ モダンアート再訪―ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展

9月15日（土）～11月4日（日）

- シャガール、ミロ、ダリ、デルヴォー、レオナルド・フジタなど、ヨーロッパで活躍した20世紀の巨匠たちに加え、抽象表現主義やポップ・アート、現

代美術の名品まで、日本屈指の質と規模を誇る福岡市美術館所蔵のモダンアートから約 60 点を選びすぐってご紹介します。

④ 矢崎千代二 絵の旅

11月17日(土)～12月24日(日)

- ・横須賀に生まれた矢崎千代二(1872-1947)は世界各地を旅し、速写性、携行性にすぐれたパステルによって、光にうつろう一瞬をとらえた風景画を描きました。近年の研究成果を集約し、あらためて地域ゆかりの作家を紹介します。

⑤ 第71回児童生徒造形作品展

平成31年1月12日(木)～1月28日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校すべてより選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

⑥ 生誕110年 野口久光 シネマ・グラフィックス

2月9日(土)～3月31日(日)

- ・戦前・戦後にかけて東和商事(後の東宝東和)に所属し、数々のヨーロッパ映画のポスターを描いた野口久光(1909-1994)。本展では、映画ポスターのほか、屈指のジャズ評論家としても活躍した野口がデザインしたレコードジャケットやジャズジャイアントの肖像など、多岐にわたる仕事を紹介します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催

① 第1期所蔵品展 4月7日(土)～7月8日(日)

特集：金沢重治

⇒所蔵する《夏の山門》が、平成28年度に実施した所蔵品展「人気投票」で1位となったことを機に、代表作を含む17点を借用し、展示室5で展示しました。金沢重治作品の穏健な写実に対し、好感をもつコメントがアンケート等に寄せられています。

② 第2期所蔵品展 7月14日(土)～9月30日(日)

特集：中園孔二展 外縁ー見てみたかった景色

⇒計画通り実施しました。若くして亡くなった才能溢れる画家・中園孔二に、多くの方が関心をもち、予想以上の反響を得ました。

③ 第3期所蔵品展 10月6日(土)～12月16日(日)

特集：創立120周年記念 日本美術院の画家たち

④ 第4期所蔵品展 12月22日(土)～平成31年4月14日(日)

特集：三木弘

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 6回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

- ・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

⇒9月末までに5回の展覧会関連講演会および出品作家によるトークショーを開催しました。

- ・「集え！英雄豪傑たち」展関連講演会 クロストーク、参加者60人。
- ・「三沢厚彦展 *Animals in Yokosuka*」展関連クロストーク、計123人（2回の計）
- ・「三沢厚彦展 *Animals in Yokosuka*」展関連アーティストトーク、80人。
- ・「モダンアート再訪」展関連講演会、21人。
- ・カフェトーク「娘から見た谷内六郎・達子」、15人。

(2) ワークショップの開催 7回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

- ・展覧会に関連したワークショップ 4回
- ・大人向けワークショップ 3回
- ・開催：土日 定員：各20名程度（事前申込制）

⇒9月末までに3回の事業を開催しました。

- ・「三沢厚彦展 *Animals in Yokosuka*」展関連WS「木を彫ってレリーフをつくってみよう」、13人。
- ・オトナワークショップ「招き猫の絵付け教室」、33人。
- ・「彦坂版画工房の木版画ワークショップ」彫り刷りコース、10人。

(3) 映画上映会の開催 2回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。

- ・開催：年2回 定員：30名×2回（事前申込制）

⇒平成31年2月に実施予定です。

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 5、6回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

- ・企画展毎に1、2回程度 開催：適宜（当日自由参加）

⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調にギャラリートークを実施しています。

- ・9月末までに5回開催、参加者計59人。

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

また、市内社会教育施設と連携し、必要に応じて市民大学講座などで展覧会や所蔵作品等の講義を行います。

⇒団体への案内解説を要望に応じて行っています。

⇒例年通り、市民大学講座と連携した団体観覧の案内を行っています。今年度は、「野口久光」展関連の講座が予定されています。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約3万冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵資料の充実

- ・一般的な美術書、子ども向けの美術入門書、展覧会に関連する資料を収集し、幅広い層の利用が可能な蔵書の構築に努めます。
- ・貴重な美術雑誌の欠号補充（古書購入）と補修をし、利用と保存に適した状態にします。

⇒当初計画通り順調に実施しています（9月末現在受入れ数：図書155冊、カタログ243冊、定期刊行物270冊）。毎日の配架整理時と蔵書点検時に資料状態を確認し、手入れをしています。

(2) 所蔵資料に関する情報提供

- ・受入れた資料を速やかにデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させます。
- ・展覧会の開催にあわせ、所蔵資料の紹介を行います。

⇒当初計画通り、受入れた資料は速やかにデータベースに登録し、公開しています。展覧会関連資料は特集コーナーに展示するとともに、チラシによる内容紹介を行っています。

4 調査・研究

- ・横須賀ゆかりの作家や所蔵作品に関連する情報を収集し、作品の調査・研究を行います。
- ・調査した内容を展覧会等に還元します。

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

[目標設定の理由]

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（％）とすると、年度ごとの満足度（％）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

(単位：％)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9 月末)
企画展満足度	87.0	88.0	89.6	87.6

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。
- ・資料の分類や配架を工夫し、快適に利用できる図書室環境の維持に努める。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

- 1 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14 回程度
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を夏休み期間中に開催します。
⇒中学生の夏休みの宿題をサポートする目的で、鑑賞ガイドの配布と館内ツアーを含む鑑賞教室を行いました。
⇒8月11日(土)～19日(日)全13回の鑑賞教室には、保護者を含め115人が参加しました。参加者数は低調だった昨年並み、鑑賞ガイドの配布状況も、同様に(3,000部作成、7月21日～8月31日配布、残数約900部)、事業効果が薄れていることは否めません。
- 2 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。
- 3 学校で行われる鑑賞活動の支援 学校の要望があるとき
授業の中で横須賀美術館の所蔵品を活用した授業が実施される際には、学校と連携し、教材活用のサポート、研修、出前授業等を行います。
⇒9月末までで、8件のアートカードの貸し出しを行いました。うち7件が横浜市の小中学校および同市の特別支援学校からの問い合わせであり、関心の高まりがうかがえます。
- 4 職場体験の受け入れ 学校の要望があるとき
子どもたちが美術館での仕事を体験する職場体験の受け入れを行います。
⇒全15校の受け入れ予定のうち、9月末までに7校12人の生徒を受け入れました。
- 5 学芸員実習の受け入れ 1回(6日間程度)
学芸員資格取得を目的とする大学生のために、学芸員実習を行います。
⇒8月17日(木)～22日(火)の6日間、7人の大学生を受け入れました。
- 6 教員のためのプログラム 2回程度
学校・教員と美術館との連携を促進するため、美術館および所蔵品の活用に関する教員向けの講座を開催します。
⇒8月に開催し、38人の参加を得ました。潜在的な関心は高い分野と見られます。しかし、新たな連携事業につながる段階までは至っていません。

子どもたちへの美術館教育

1 ワークショップの開催

8回

子どもたちが美術に親しめるよう、子どもまたは親子を対象としたワークショップを開催します。

開催：5月、8月（予定） 定員：1回20名程度（事前申込制）

⇒9月末までのワークショップ開催回数は5回、参加者数計 420人。

- ・「集え！英雄豪傑たち」展関連事業「武者絵の和風を作って飛ばそう！」18人。
- ・「集え！英雄豪傑たち」展関連事業「甲冑着付け体験」324人(3日間)。
- ・「海の見える哲学カフェ 中園孔二さんの作品についておしゃべりしよう！」23人。
- ・「彦坂版画工房の木版画ワークショップ 刷りだけコース」39人(2日間)。
- ・「クスノキの端材でオブジェをつくってみよう」16人。

2 映画上映会の開催

2回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会（野外シネマパーティー）を開催します。

開催：8月 定員：なし（当日自由参加）

⇒平成30年度は2日間とも晴天にめぐまれ、760人の参加者を得ました。

3 親子ギャラリーツアーの開催

4～5回

親子で美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

⇒9月末までの親子ギャラリーツアー開催は1回、参加者6人でした。

4 保育園との連携

20回

市立保育園10園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の2つを行います。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

〔目標設定の理由〕

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行っていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととし、春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催しています。平成29年度は、9月～11月に開催した「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界」展が、未就学児を含む家族層から好評を得ました。一方で、中学生の利用が、ここ数年間の中では最も大きく減少しました。展覧会の内容によって、観覧者の年齢別の比率は、影響を受けやすいことがうかがえます。

平成30年度は、夏季に、動物をモチーフとした木彫作品で知られる三沢厚彦氏の展覧会を開催し、家族層へのアピールに努めます。また、秋に開催予定の「モダンアート再訪」展では、ミロ、ダリをはじめ、小学校高学年から中高生の興味を引きやすい作品が展示されるので、この年代の児童・生徒に向けた積極的なPRを心がけることとします。

また、学校連携については、メインとなる小学生美術鑑賞会に加え、教員を対象とした「美術館活用講座」を平成29年度より始めました。このほか、市内外の研究授業および公開授業にも積極的に参加し、学校と美術館の連携に関する先事例を調査しています。平成30年度も引き続き、講座の開催をはじめ、教員との連携強化を図り、学校を通じた美術館の活用促進が進むよう努めます。

ただし、数値面で見ると、市全体の14歳以下の人口が減少傾向で、小学生美術鑑賞会の参加者である市立小学校6年の在籍者数も、開館時と比較して15%ほど下降しています。このようななかで、中学生以下の観覧者数を毎年同じ水準で維持することは容易ではありません。こうした点から、平成30年度の観覧者数の目標は、これまで通りの22,000人とします。

中学生以下の観覧者数 (単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (9月末)
幼児	7,202	5,668	11,562	3,417
小学生	12,639	12,414	12,335	4,708
中学生	4,332	4,126	3,448	2,599
計	24,173	22,208	27,345	10,724

⇒上表については、平成29年度における9月末時点での数値と、ほぼ同水準です(平成29年9月末10,631人)。

⇒学校連携の面では、引き続き、質の高い鑑賞支援ができるよう努めていきます。

⇒ワークショップ等の主催事業については、予定通り充実した内容で実施できるよう、努力してまいります。

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。

- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
 - ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
 - ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
 - ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
 - ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
-

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、学校教育においては、時間配分の面でも内容の面でも、鑑賞は最小限で、表現が学習の中心になりがちです。

しかし、近年の小・中学校の学習指導要領では、鑑賞教育を重視する傾向が強まっています。平成23年以降の学習指導要領では、小・中いずれにおいても、美術館・博物館の活用や連携が示されているほか、鑑賞を通して言語活動を充実させることが重視されています。平成29年に告示された新学習指導要領では、こうした方向を引き継ぎつつ、さらに、校外での児童の作品展示（小中学校）や、学校における鑑賞のための環境づくり（中学校）について、言及があります。こうした状況を踏まえ、美術館は学校のニーズを積極的に汲み上げていく必要があります。

同時に、学校ではできない、美術館だからこそできるプログラムを通して、子どもたちが美術に親しむ機会の拡充に努めることも重要です。家族で参加する鑑賞教室やワークショップ、アーティストによる子ども向けワークショップなど、美術館ならではのプログラムを企画、提供し、子どもたちへの美術館教育を推進します。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵作品約 5,000 点の管理を行います。

1 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

- (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
- (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
- (3) 「海」を描いた作品
- (4) 日本の近現代を概観できる作品
- (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

⇒平成 30 年度の収集作品は美術品評価委員会を経て決定するため、現時点で今年度の収蔵作品は未定です。

2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

⇒企画展「矢崎千代二展」に出品する所蔵作品を優先し、作品の保全に配慮した額装替、新規額装を行っています。（矢崎千代二作品 14 点の新規額装、3 点の額調整）

⇒瀬戸内市立美術館で開催された「生誕 100 年 清宮質文展」に対し、清宮質文作品 50 点を貸し出しました。

3 環境調査の実施 年 2 回

作品を保管する収蔵庫、保管庫及びその周辺（搬入口、荷受荷解室）に加え、今年度新たに展示室についても環境調査を実施します。

⇒5月7日～6月4日、7月6日～8月8日の日程で実施しました。今年度より実施範囲を拡大した展示室内で、少数ながら2回にわたりシミ類が捕獲されたことを受け、緊急の措置として、9月9日に企画展示室に対して殺虫・忌避剤（ブンガノン）散布を実施しました。

4 美術品評価委員会の開催 年 1 回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

⇒平成 30 年度の委員会を平成 31 年 3 月ごろに開催する予定です。

5 美術品等取得基金の検討

基金のあり方について具体的な方策を検討します。

⇒基金のあり方について、具体的に検討しています。あわせて、将来美術品を購入するための方策についても、前向きに検討しています。

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）
美術品評価委員会の開催（年1回）

[目標設定の理由]

美術館としての基本的な活動として、作品収集を行っていますが、購入費（基金）が充当されていないため、寄贈に頼っているのが実状です。したがって、数値目標として新規収蔵作品の数量等を設定することは不適切であると考えます。そうしたなかで、収集のための情報収集や調査を継続的に行うことの結果として、受け入れの可否を諮問するための美術品評価委員会を、年に1回開催することを数値目標とします。

また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、あわせて目標とします。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・ 作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

[目標設定の理由]

- ・ すぐれた美術品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

1 運営業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供します。

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有

(運営事業者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日)

⇒計画通りに実施し、連絡不足による問題の解消に努めています。

- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握

⇒受付スタッフからの日報を受けて、課題や苦情の把握に努めています。

- ・館内巡回によるスタッフ対応等の確認(毎日)

⇒職員による巡回をほぼ毎日実施しています。

- ・レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続

⇒継続実施しています。

- ・付帯施設(ショップ・レストラン)に対するアンケート結果等を提供し、協力して満足度の向上を図る

⇒月1回の運営事業者会議にてアンケート結果を提供しています。

2 維持管理業務

施設・設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供します。

- ・設備担当スタッフ(委託業者)による設備点検(毎日)

⇒継続実施しています。

- ・館内巡回による清掃状況及び施設不具合の確認

⇒継続実施しています。

- ・施設・設備の不具合箇所に対する早急な修繕および計画的な修繕

⇒随時または計画的に実施しています。

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
 - ・スタッフ対応の満足度 80%以上
-

[目標設定の理由]

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目(アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合)の内、外部要因や展覧会等の企画内容によ

る影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。

- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。

なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

(単位：%)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9 月末)
館内アメニティ満足度	92.3	92.8	94.5
スタッフ対応の満足度	86.0	86.8	88.0

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

[目標設定の理由]

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

- 1 福祉活動講演会の開催 1回
触察本の制作や彫刻の触察など、誰もが美術に親しむことができるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。大学等、関連機関への広報を行います。
- 2 福祉関連イベントの開催 2回
障害の有無に関係なく、誰もが美術や表現活動に親しむことができる福祉関連イベント（鑑賞ツアー、ワークショップやパフォーマンス）を開催します。
⇒横須賀市点字図書館と共催し、視覚障害者のための鑑賞会（音声ガイドと触図を用意。申込み不要、自由参加）を実施予定です。申し込み制の茶話会も開催し、視覚障害者と美術館をつなぐきっかけを作ります（「視覚障害者のための出張鑑賞会 in 横須賀市点字図書館」10月26日（金）、27日（土））。
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催 12回
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。年度末に、ワークショップ室において一年間の成果を展示します（共同制作した大型作品の展示）。
⇒6回開催し、利用者はのべ147人となっています。美術館HPおよび広報よこすかにおける広報の見直しを行ったことが、利用者の増加につながっています。内容についても、皮下や海の広場をつかった活動を行ったり、新しい素材を取り入れることで、リピーターの満足度を保つよう心がけています。
- 4 未就学児ワークショップの実施 1回
就学前の子どもたちが美術に親しめるようなワークショップを開催します。
⇒平成31年3月に実施予定です。定員20名×2回
- 5 他館との連携（MULPA） レクチャー等 2回
近隣美術館（神奈川県立近代美術館、平塚市美術館、茅ヶ崎市美術館）や芸術活動支援団体と連携し、障害者や定住外国人等の表現活動および美術館利用を推進するための事業を実施します。（平成32年度までの継続事業）
⇒受付監視などの美術館スタッフを対象としたユニバーサル研修を開催予定です（11月5日、横須賀美術館にて）。車椅子ユーザーや聴覚障害者、視覚障害者など当事者も講師に迎え、障害者を取り巻く状況や障害の特徴を知り、来館時に必要なサポートについて考えます。
- 6 託児サービスの実施 実施
1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスを実施します。
⇒事業に合わせて募集を行い、5回実施しました。

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上

[目標設定の理由]

- ・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
- ・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成 30 年度の事業内容を考慮し、360 人以上を平成 30 年度の目標値としました。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (9 月末)
福祉関連講演会	28	27	12	未
福祉関連イベント	45	84	37	未
みんなのアトリエ (障害児者向けワークショップ)	189	192	197	147
未就学児ワークショップ	31	39	33	未
他館連携(MULPA)	—	—	133 ^{*1}	未
託児	25	19	18	実施
計	318	361	432	147

※1 他館連携は平成 29 年度から 32 年度までの実施とし、33 年度以降については、一部事業を継続していくか、他事業と合わせて検討する予定です。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成 30 年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。託児の利用者数を目標値に含めないこととした理由は、事業の内容によって託児の利用者数は増減するものの、それが必ずしも、本項目(⑦)の達成度合いを反映しているものではないと考えられるためです。たとえば、乳幼児が一緒でも観覧しやすい展覧会や、年齢制限のないワークショップを実施した場合、託児の利用者数は少なくなりますが、この場合でも、⑦の目標は、託児とは別な形で実現されたと見なされます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、平成 30 年度も引き続き、適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。
⇒空調自動制御システムの改修を実施中。より効率的なエネルギー管理を行います。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。平成30年度から、契約電力を620kWから600kWに変更することにより電気料の削減を図っています。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間の平均値を目安・目標とします。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (目標)
総電気使用量(kWh)	2,540,390	2,441,219	2,539,289	2,507,000
水道使用量(m ³)	4,396	4,394	4,608	4,470
事務用紙使用枚数 (枚)	211,250	253,550	259,550	241,500

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。